



三重中央だより

当院の理念 (Principle) ●いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心して質の高い医療を行います。

テーマ チーム医療



個人力を合わせ、チームみんなで患者さんを支えます

精神科医療の地域連携

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
院長 村上 優



わが国の精神科医療は地域での生活を基本とする生活モデルに移行するように叫ばれて久しい。急性期で入院が必要なときは3ヶ月以内の集中的な医療で、病態が重く長期入院化するにしても1年以内の退院を目標に様々なアウトリーチ（訪問活動）や地域活動（作業所や生活

支援センター）によって、在宅で精神科医療を利用しながら生活を営む、そんな姿が描かれています。

2014年7月より沖縄の琉球病院から榊原病院に赴任して1年が過ぎますが、これまで臨床も

研究も「重症」や「専門医療」の医療畑にいました。特に医療観察法医療は「心神喪失等の状態で重大な他害行為」を行って裁判所の命令で入院する重厚長大な精神科医療とされています。実際の医療は難題を有しても「社会復帰促進」することが実証され、今の精神科医療に還元できる多くの治療や支援方法を提供してきました。その一つに病院の多職種（医師、看護師、心理士、作業療法士、精神保健福祉士）や地域の多岐に渡る援助職と連携する多職種チーム医療が発達しました。また当事者（回復者や家族）も参加して市民的な支援も作られています。

地域医療というのは医療・福祉・市民的な支援の多様な重なりで成り立ちます。病院は包括的精神科医療の中の重要な駒ではあっても中心ではなく、「病や障害があっても地域での生活を支える」ノーマライゼーションの考えに沿った一機関として参加をしています。

もう一つの地域連携は精神科疾患の早期発見です。

思春期に抑うつ、焦燥感、引きこもり、過敏性など「こころの危機」が現れる、統合失調症などの明確な精神疾患とは診断できない時期に専門医療機関へ相談を始めることで、その後の精神疾患の発症をある程度は防止できると考えられています。この状態を「こころのリスク状態」at risk mental state (ARMS) と呼称して世界的にも関心を呼んでいます。

うつ病を念頭において自殺予防の観点より不



眠や抑うつ気分がある場合に気楽に精神科専門医に紹介するシステムが提唱されています。また飲酒量や飲酒頻度が多く、飲酒行動が健康に有害となっている段階で飲酒量の低減（節酒）を図りアルコール依存を予防するシステムもあります。認知症を早期に診断して認知症の進行をおくらせ、地域支援を行うことにより家族の負担を軽減するプランは、オレンジプランとして国がシステム作りを進めています。

これらの疾患はまずはかかりつけ医、小児科や内科などの精神科以外で遭遇する疾患で、身近に健康相談を受ける様々な機関が受ける相談です。私も沖縄では地域の医療機関や支援機関と連携して病や障害がある人を支える体制作りと、早期発見・早期介入を目標にした地域ネットワーク作りを行ってきました。榊原病院でもその体験を生かして地域に貢献する専門性の確保と気楽に相談できる敷居の低さを両立した精神科医療でありたいと思っています。

榊原病院への受診のご相談は、下記の相談窓口にお気軽に連絡してください。

電話番号 059-252-0211

榊原病院の地域連携室まで。

病院の要、感染管理：感染管理チーム活動



感染管理認定看護師
近澤 香織

私たちのチームは、感染症の代表格であるインフルエンザやノロウイルス等が流行した際にも活動を行います。当院には、感染管理のエキスパートが沢山在籍し、感染管理チームの医師・薬剤師・検査技師・看護師が感染拡大を未然に防ぐべく活動を行っております。

入院患者様に熱やだるい症状が続く等の際には、多くの場合抗生剤が使用されます。その時には、感染管理チームが集合し状況を確認します。抗菌作用のある薬が適切に処方されているか、体を脅かしている微生物を的確に抗菌できる薬が使

用されているか、副作用などを起こしていないか、他の患者様へ感染を広げるようなことになっていないか等、チームのそれぞれが担当分野の知識を出し合いながら、患者様にとって適切な医療が行えるように活動しています。

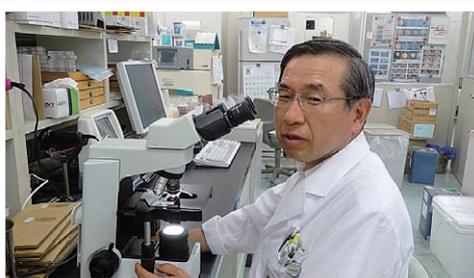
感染管理チームの活動は、院内だけに留まりません。津地区や松坂地区の総合病院と連携をし、年に1回ずつではありますが相互チェックを行っています。相互チェックとは、お互いの病院の感染管理活動が適切に行われているか、お互いの病院を訪問し合って、不十分な所は改善し、良いところは吸収して見習うような活動を実施しています。又、地域の病院と感染管理体制についてのカンファレンスも行っています。

感染管理チームは感染症を発症している患者様だけでなく、そのご家族、及び医療従事者など施設に関連するすべての人々を感染の危険性から守るため努力しています。

「私たちは、病原微生物の流行を監視し、皆様を感染症の脅威からお護りします」

私と「チーム医療」とのかかわりは、平成13年8月、当院に発足した感染制御チーム（ICT）といういわば、医療の安全、安心の一翼を担う感染管理組織のメンバー（微生物検査担当）として任命され、以来、14年間、臨床微生物検査の立場から、感染管理を根底から支えるため、ICTに参加させていただいています。

感染管理は、病院施設内での「感染症の発症予防」が主な目的ですが、更に、医療環境の整備を含め、公衆衛生全般を視野に入れた新しい医療分野です。その使命とは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員など、多職種のスタッフが得意とする分野を分担し、可能な限りエビデンスに基づき、責任をもって、感染症の治療、感染予防、職員の健康管理などを行い、患者さまに良質な医療を提供することにあります。その中で、私の役



感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）
中野 学

割として、微生物を培養後、その動向を監視し、感染源究明のため、微生物検査データの管理を行い、脇役としてICT活動を支えています。その内容は、微生物検査で得られたエビデンスに基づく微生物検出情報および、抗菌薬感受性情報の管理、院内感染対策委員会、ICT会議、津・久居地域を視野に入れた感染管理のための地域連携会議、ICT抗菌薬ラウンド等の参加および、関連会議での検討資料作成など、多岐に渡りますが、大変、有意義な活動であり、特に、院内アウトブレイクを阻止するため、その病原体の早期発見に努めています。近年、抗菌力の優れた化学療法剤の開発に伴い、新型の薬剤耐性菌が次々と発見され、その検出には苦慮いたしますが、毎日、大変遣り甲斐をもって業務に勤しんでいます。

エネルギーに !! 褥瘡対策

みなさんは『褥瘡（じょくそう）』という言葉はご存じですか？褥瘡とは、寝たきりなどによって、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり滞ることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことです（褥瘡学会Webサイトより引用）。これは、いわゆる『床ずれ』と呼ばれているものです。私の役割は、褥瘡発生予防と褥瘡の早期発見・重症化予防です。日々、定期的な病棟ラウンドや褥瘡回診で、患者様のベッドサイドへ伺い療養環境の調整を行っています。

褥瘡が発生しやすい患者様の特徴としては、長期間寝たきりの方、栄養状態の悪い方、皮膚が弱っている方（高齢者、排泄物や汗で皮膚が蒸れている方、むくみがある方など）、特殊体位や長時間の手術を受けられる方などで、様々な原因が重なり合って生じることが多いです。

このように、褥瘡発生の原因は様々で、私一人

の力では、患者様の皮膚を守ることができません。そのため、当院では、医師や看護師、栄養士、薬剤師など様々な職種で構成される褥瘡対策チームが、患者様の治療と看護を行っています。チームメン

バーの平均年齢は若く、エネルギーが豊富なチームです。これからも、チームメンバーが一丸となって、患者様にとって、より良い治療が受けられるように活動していきたいと思っています。



皮膚・排泄ケア認定看護師
谷口 真里

褥瘡対策、チームプレイで極めます

『One for All, All for One』学生時代、野球やラグビーを専門種目としてきた私は、日々チームプレイを重要とし、この言葉を心に刻み込んできました。近年では私たち管理栄養士がチーム医療

に携わる機会は増えており、褥瘡予防や治療においても栄養管理が重要であると言われています。褥瘡要因の1つとして問題となるのが低栄養です。低栄養は、筋量や筋力、皮膚弾力性の低下などを引き起こし、褥瘡を生じやすくするだけでなく、褥瘡治療の大きな障害となり治癒を遅らせます。そのため、皮膚への圧迫を減らす一方で、皮膚や筋肉に十分な栄養を与え、低栄養の改善を目指すことが栄養管理の目的です。褥瘡対策チームは各職種一丸となって活動しており、様々な視点から専門性をもって活動できるところにチーム医療の大きなメリットがあると実感しています。NST（栄養サポートチーム）や緩和ケア、感染管理チームなど他チームとの連携も大切にしながら、まさに『One for All, All for One』の精神でより最適な栄養管理を目指していきます。



管理栄養士 丹羽 正人

NSTチームは栄養障害と闘います

私たちは普段何気なく食事を食べていますが、患者さんの中には満足に食事が食べられない方も多く入院しています。また消化管機能障害、肝・腎機能障害、糖尿病など臓器・代謝障害を起こしている場合も適切な栄養補給が行われなければ、栄養障害に陥り、そこからさまざまな機能の低下に繋がっていきます。例えば、治療に対する反応性の低下や、感染症、褥瘡などの合併症が発生しやすくなります。当院では医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師など多職種から栄養サポートチーム（NST）を構成し、栄養障害の改善を目的に職種の壁を越えたチーム医療を行っています。また病棟にはNST担当の看護師を配置し、栄養障害に陥った患者さんの早期把握も試んでいます。栄養療法は、一般的な他の治療と異なりすぐに効果が現れるものではありません。しかし、NSTは多職種間で患者さん個々



外科医師 武内 泰司郎

にあった栄養療法を協議、検討することにより栄養状態の改善をもって患者さんに貢献できるよう取り組んでいます。

栄養管理は治療の基本であり、NSTはそれをサポートしています



栄養管理室長
金子 康彦

栄養不良とは、栄養の過不足により過剰状態と不足状態の大きく2つに分けられます。栄養の過剰摂取は、肥満や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病に、栄養の不足は低栄養状態と言い、体重、筋肉量の減少や体の抵抗力の低下などにつながります。低栄養状態が続くと、感染症や褥瘡、転倒など病態の悪化に直結します。栄養の過不足は、食事量の増減や体重の変化で分かります。毎日の食事に注意し、1週間に1回程度の体重測定をお勧めします。

入院中の方の多くは低栄養状態に陥っており、

その栄養状態の管理は疾病治療と入院期間に大きく影響します。すなわち栄養管理そのものが治療の基本であり、大切なものとなります。NST：栄養サポートチームでは、依頼のあった患者さんに対し週1回、多職種が協働で回診や協議を行い、総合的に最善と思われる栄養管理法を提案しています。

当センターのように急性期医療を担う施設では、疾病治療が主体となり、治療後は早期退院が進められています。入院中の栄養管理が悪いと退院後の容態にも影響します。また、悪化した栄養状態の改善には多くの時間が必要となります。そのため、今後は退院後の在宅や介護施設など地域との連携を見据えた栄養サポートの強化も考えていきます。

当センターは管理栄養士の病棟担当制で入院中の栄養管理をサポートしています。食事・栄養について、気になることやご心配なことは管理栄養士にご相談ください。

こころの痛み、からだの痛み

身体が痛めば、こころも痛みます。

がん患者さんやそのご家族の悩みは、いくらこちらが想像してもおよぶところではありません。

そして身体の不調や病気は、肉体的な苦しみに留まりません。

病気の進展による痛み、抗がん剤による吐き気などの身体的苦痛だけではなく、将来への不安や抑うつ、高額な医療費など心理・社会的問題も含まれます。こうした苦悩を軽減するアプローチは緩和ケアと呼ばれており、当院には多職種で構成されている「緩和ケアチーム」が活動しております。

痛みの不安は、人のこころに強く影響します。

「緩和ケアチーム」での臨床心理士の仕事は、そういったこころの不安やつらさに寄り添うことです。

家族や友人でない者に対して自身の気持ちを言葉にする、そういった“場”を共有させてください。

こころが落ち着いて整理ができた時に、また一歩踏み出せるお手伝いができるかもしれません。



臨床心理士 中沢 理恵

薬剤から支える緩和ケア

緩和ケアとは、様々な痛みやつらさを抱える患者さんとそのご家族にとって、身体や心のつらさ、苦痛を和らげて、できるだけ快適な生活が送れるように支援する医療です。緩和ケアチームでは、その緩和ケアを提供するために多くの職種が集まって、それぞれの領域の力を発揮して、患者さんとそのご家族をサポートしていきます。医師、

看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士等から構成されており、週1回メンバーが集まってカンファレンスを行い、意見交換を行いながら患者さんの治療について取り組んでいます。

緩和ケアチームにおいて、薬剤師は薬の専門家として、主治医や他の職種のメンバーと連携しながら、患者さんの治療に関わっています。具体的には、患者さん一人ひとりに合わせた薬物治療の提案、薬剤の効果の確認、そして副作用が生じた場合の対応等を薬学的な面からサポートしています。また、患者さんへ医療用麻薬をはじめとした様々な薬について、使い方や目的、副作用について説明しています。医療用麻薬については、まだ誤解のある薬剤ですので、服薬指導の際には、患者さんとそのご家族の方へ正しい情報をお伝えし、不安を払拭するための情報提供を行っています。



薬剤師 野崎 英里

我が心の故郷

津・久居



藤原 京子

久居の地名は藤堂高虎の孫藤堂高道が「久しく居住める場所」という意味で名づけられたと学生時代に聞きました。私の生まれは三雲町ですが、国立津病院付属看護専門学校を卒業後、平成元年に津病院に就職し、新設三重中央病院から現在の三重中央医療センターへと、久居とのご縁は早三十年になります。電車通学をしていた当時は、久居駅東口を出て数メートルほど道を横断すると、津病院の正門に着き、病院の敷地内に入ることができました。狭い駐車場内には桜や櫟の木が植えられており、駐車場の一角に一際目立つ立派な桜の木がありました。毎年春には木全体がピンクに染まりとても癒されました。

現在津病院の跡地では、久居の多くのの方々によって、久居祭りを始めた様々なイベントが開催され、緑



の風公園として沢山の人々が集う憩いの場所になっています。そして今あの桜の木の姿はありませんが、櫟の木は少し枝が伐採されながらも公園に堂々と生命強く咲き誇っています。この太い幹、葉が生い茂る枝には、久居の長い歴史が刻み込まれ、この地をずっと見守り続けています。

私自身も看護を通して沢山の人との関わりの中で、様々な学びを頂きながら今の自分の歩みがあると感じています。三重中央医療センターは専門医療に分かれて患者様が治療に専念できる病院として機能しています。これからもあの桜や櫟の木のように温かく患者様一人ひとりの思いに寄り添える医療・看護を提供し続け、入院時から退院調整部門と連携をもち患者様自身の人生をより快適な形にしていきたいと思っています。



緑の風公園



赴任された先生



産婦人科
波多野 芙美

5月に三重大学附属病院より参りました。出身地は、旧久居市内であり幼い頃からなじみ深い当院で働くことができてうれしい反面、緊張でいっぱいです。三重大学を卒業後、大阪の病院での勤務を経て、三重県に戻ってまいりました。久しぶりに久居の花火を見て、夏が来たと感じるとともに帰ってきたことを実感しております。

少しずつ仕事にも慣れて、休日には実家に帰り家族で食事したりとリラックスした時間をとることもできるようになってきました。食べるのが大好きで、日々、新しいおいしいものを探しております。おすすめがありましたら是非教えてください！体を動かすことも大好きで、以前はテニスやゴルフ、マラソンをしておりましたが最近あまり

できておりません。これからは、たくさん働き、おいしいものを食べ、しっかり運動をする生活ができればなと思っております。

新しい環境に不安でいっぱいでしたが、尊敬する先生方や優しいスタッフに囲まれて日々楽しく学び多い生活を送っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外でも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

ボイラー技士長 谷川 勝則

(写真の右側の方です)



私たちの職場である中央監視室は病院の設備の中核をつかさどっている、病院の運営にとって非常に重要なところであります。

具体的には、病院に必要なエネルギーを発生させる熱源装置（ボイラー等）、電気、空調設備、病院の様々な設備機器の運用維持管理を一手に担当し、快適な病院の環境作りに貢献できる様、日々努力しております。

この病院ができて18年が経過し、時代とともに様々な課題が私達の業務に与えてくることも多くなって来ています。

例えば省エネルギーに関する取組、そして環境に関する取組の重要性を日々の業務の中で認識することが多くなりました。

私達は、これらの課題に正面から向き合いました、真剣に取り組みこの病院の質の向上に役立

てられるよう

頑張っていきたいと考えております。

その為には病院の職員の方、また関係各方面の方々の皆様のご理解、ご協力が不可欠だと思いますので宜しくお願い致します。

外来、入院患者の方々により快適な環境作りのお手伝いを念頭におき、大変責任の重い大きい職務ではありますがその分非常にやりがいを感じ日々の職務に当たっております。

近頃、東海大震災の話題も多く聞かれるようになって来ております。あってはなりません万が一、不足の事態にも備える心構えもつねに持ちつづけなければなりません。

この病院が長く地域で一番でありつづけられるよう、少しでもその支えになる事が出来るよう頑張っていけますので宜しくお願いします。

がん医療に関する市民公開講座

●会場：アスト津4階アストホール

9月26日(土) 13:30~16:30 (13:00開場、受付開始)

講演1 13:50~

・「前立腺がんについて」

座長：肝臓・消化器内科医長 竹内 圭介
講師：外来診療部長・泌尿器科 加藤 雅史

講演2 15:10~

・「子宮がんについて知ってほしいこと」

座長：外科医長 谷川 寛自
講師：婦人科医長 吉村 公一

出前！市民公開講座のお知らせ

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●会場：イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール

9月15日(火) 15:00~16:00

・地域で支える脳卒中 ~寝たきりゼロを目指して~

講演：脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 井口 美菜子

10月20日(火) 15:00~16:00

・脳卒中の外科治療のすべて

講演：脳神経外科 医師 芝 真人

シリーズ 医療用語の 基礎知識 11

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

ジェネリック

ジェネリック医薬品と呼ぶことが多いようです。

新薬の開発には、一般的に10年以上の歳月と、数百億円以上の費用がかかると言われています。そのため、特許の申請により、その有効期間の間は、開発メーカーが独占して新薬を製造でき、利益が守られる仕組みとなっています。特許の有効期間（10年以上です）が切れると、他メーカーも同じ成分の薬を製造できるようになり、この薬がジェネリック医薬品と呼ばれています。

ジェネリック医薬品は、既に有効性が確認された成分を使用しているため、開発期間が短く、新薬よりも安い経費で開発できるため、値段も当然安くなります。薬の値段が安いということは、皆さんが病院で払う自己負担額も減ります。具体的には、最初は原則新薬の7割、その後2年に1回の薬価改定ごとに金額が見直され、安いものでは新薬の2割程度になっているものもあります。日本全体の医療費は年々増加しており、保険料でまかなえない部分は実は税金で補填されているのをご存知ですか。薬代が減るとということは医療費が減ることなので、国のお財布にも優しい仕組みだと言えます。



では新薬とジェネリック医薬品は全く同じなのでしょうか。成分、含量は同じですので、有効性、安全性、効能、効果も同じです。ここは間違いありません。一方、薬の形、色、味、添加物などは、各メーカーによって工夫できますので、効き目は同じでも、飲み薬の場合は味や形が異なり、塗り薬や湿布の場合は感触が変わることがあると思います。

国はジェネリック率80%を目標に掲げようとしています。このような時代の要請により、当院でも順次ジェネリックに切り替えていっていることをご理解願います。皆さんからもご希望される場合は、是非診察の際におっしゃってください。

(医事 伊藤啓之)

No.11

ブース

模擬店・文化講演
盛りたくさんです。

病気を知り 予防し 生活するための

文化祭

川中川

2015 **11.3** (Tsu)

入場無料

11:00~16:00

三重中央医療センター 地域医療研修センター

市民公開講座 開催

15:00~

タバコの害と最新の「禁煙」治療
呼吸器内科 内藤 雅大

14:00~

脳梗塞 — 予防から治療まで —
脳神経外科医師 種村 浩

13:00~

腰痛って治るの？
整形外科医師 浅沼 由美子

皆様のご参加をお待ちしております。

出前！市民公開講座報告

近々、新メニュー登場！
乞うご期待！！

第61回 イオン津南ショッピングセンター サンバレー

日時：7月15日（水）

講演：「手足がしびれています。手術しないとだめですか？」

整形外科医師 浅沼 由美子

83名という大勢の方に来場いただきました。

日頃から手足のしびれに関心を持たれている方が多いのだと実感いたしました。

これからも、皆様のお役に立てる講演を開催してまいります。



第61回

第62回 医療通訳育成研修

日時：7月18日（土）

講演：「胃がん治療はどうすればいいですか？」 外科医長 谷川寛自

「生理検査ってなんだろ？」 臨床検査技師 久留泰史

「医療相談室ってどんなところ？」 医療ソーシャルワーカー 津川忠久

主催：三重県国際交流財団

外国人永住者や観光客が増える中、病院を受診される各国の方も増えていきます。そんな中、医療通訳として活動できる人材育成のために・・・と講演依頼をいただきました。

ポルトガル語を始め、スペイン語や中国語を通訳される方々とお会いしました。私たちも医療現場で安心していただけるよう外国語を覚えなければ！と実感いたしました。



第62回

第65回 リージョンプラザ

日時：8月18日（月）

講演：「物忘れが気になったら」

神経内科医長 北川 長生

主催：ほぼらあとあうら パソコン教室

あれれ？最近物忘れが・・・と不安がよぎる中、先生の話聞いて安心です！



第65回

「クローバー友の会」 会員募集

「クローバー友の会」は地域の皆様と病院が、様々な病気・医療の学習を通して理解を深め合う会として発足しました。賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。登録は無料です。会員には当院から健康に関する様々な情報をお届けします。受付でお声かけください。登録と同時に会員証をお渡しいたします。

たくさん勉強していただいた方には素敵なプレゼントがあります。

記入いただいた個人情報は本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。

三重中央医療センター 地域医療連携室



会員にご登録いただきありがとうございます。
講演会に参加いただくごとに1スタンプ押印いたします。
(スタンプ数による特典は別紙公表いたします。特典は変わることがあります。)

■会員姓 _____
住所 _____
氏名 _____
電話 _____

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

編集 後記

さわやかな秋風をふわりと感じられる季節となりました。

三重中央だより9月号では、「チーム医療」をテーマに、様々な役割を持つスタッフの記事に、それぞれの思いをのせて、掲載しました。これからも地域の皆様が、健康的な生活が送れるように、少しでもお役に立つ情報をお届けしていきたいと思っております。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

(津)

発行所

三重中央医療センター

院長 森本 保

三重県津市久居明神町2158番地5

TEL. 059-259-1211

http://www.hosp.go.jp/~nmch

●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●

美 杉 診 療 所



合併して「津市」を冠したとはいえ、人口過疎地には変わりのない美杉地域で、先代から数えると60年間診療をしております。私自身も在任30年を超えました。

かつては各地区で7名の医師が地域医療に携

わっておられました。常勤で開院しているのは今や当院だけになりました。診療の形態も様変わりしました。超高齢者の単独または夫婦のみの世帯が多く、医療と介護の橋渡しの役割が年々増しております。

先細り感はありませんが、できる限りこの地域の行方を見届けたいと思っております。

院 長：田中 仁史
住 所：〒515-3421 津市美杉町八知5578
電 話：059-272-0310 Fax：同左
診療時間：平日 午前8時30分～午後5時
休 診 日：土曜、日曜、祝祭日

前 川 内 科

ホームページアドレス：<http://www.za.ztv.ne.jp/maegawa-naika/>



津市垂水に開業してから17年近く経ちました。地域密着型医療を目指し、分かりやすい説明と丁寧な診察を心掛けています。

内容は一般内科、消化器を中心に各種健診、がん健診、予防接種を行い、糖尿病の方には管理栄養士による栄養指導を無理なく行っております。

又、中年期以降の女性には骨密度検査もお勧めしております。なお院内はバリアフリーです。専門は肝臓、消化器ですがそれ以外の患者さんの方が多くて、難しい症例は三重中央医療センターの各科の先生方にお世話になっております。

今後とも宜しくお願い致します。

院 長：前川 彰
住 所：津市垂水南浦1425
電話番号：059-221-3700 Fax：059-221-3888
診療科目：内科 消化器科 循環器科 呼吸器科
休 診 日：日曜 祝日 木曜午後

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
15:00～18:30	○	○	○	△	○	○

はやし整形外科



当院は、平成7年12月に津商業高校前のT.T.C.医療ビル1階に開院しました。地域の皆様方の運動器疾患と向き合って、20年が過ぎようとしています。

近年、高齢化に伴い骨折が原因で寝たきりになる人が増加してきています。当院では、この骨折の原因となる骨粗鬆症の検査、治療、予防を行っ

ています。また骨、関節、筋肉といった運動器の機能が衰え、「立つ」、「歩く」といった動作が困難となり、要介護状態や寝たきりになってしまう可能性が高いロコモティブシンドロームにならないように指導も実践しています。

通院が困難な状態になっている患者さんには往診も行っていますので、気軽にご相談ください。

院長：林 俊伯
 住所：〒514-0062 津市観音寺町799-7
 TTC医療ビル1F
 電話：059-229-5711 Fax：059-229-5712
 診療科目：整形外科
 休診日：日曜、祝日、木曜午後

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	△
15:00～18:30	○	○	○	△	○	△	△

△13:00～15:00

たじま泌尿器科皮膚科

ホームページアドレス：<http://www.myclinic ne.jp>



当院は平成13年9月に開院しました。県庁の裏通り（西の通り）のT字路を南方向に進み最初の信号を西側へ曲がったところにあります。CT、XP透視台、超音波検査装置、電子膀胱鏡、尿流量計、簡易手術室を備え、前立腺生検を含め、ほとんどの一般泌尿器科検査が可能です。入院はで

きませんので、手術は外来手術のみです。アテローム等の小さい皮膚、皮下腫瘍切除、皮膚生検、包茎手術、避妊手術（精管結紮術）などです。入院が必要な疾患が見つかったとき、三重中央医療センターをはじめ、患者さんが希望される病院を紹介させていただいております。

院長：田島 和洋
 住所：津市鳥居町278-6
 電話：059-221-2121 Fax：059-221-2111
 診療科目：泌尿器科、皮膚科
 休診日：日曜、祝日、水曜

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	△	○	○	○
15:00～18:30	○	○	△	▽	○	△

▽木曜午後：手術、検査 14:00～17:00
 △土曜午後：診察、手術 14:00～17:00



外来診療担当表

平成27年9月1日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外)	1診	井端 英憲【呼】	大本 恭裕【呼】	北村 政美【循】	田中 剛史【糖】	川崎 敦【循】	
	2診	竹内 圭介【消】	中久木 哲也【循】	岡野 智仁【呼】	田中 淳子【循】	後藤 浩之【糖】	
	3診	新谷 卓也【循】	子日 克宣【消】	十時 利明【消】	渡邊 典子【消】	亀井 昭【消】	
	4診	中谷 仁【循】	奥田 昌也【糖】	田口 由紀子【消】	倉田 一茂【消】	内藤 雅大【呼】	
	10診		吉川 恭子【消】				
再診内科 (再診予約のみ)	呼吸器科	5診			井端 英憲(午後再診)		
	循環器科	5診	田中 淳子	川崎 敦	新谷 卓也	中久木 哲也(午前再診)	
	呼吸器科	6診		井端 英憲	井端 英憲	大本 恭裕	
	(整形1診)			藤本 源			
	消化器科	7診	子日 克宣	亀井 昭	渡邊 典子	十時 利明	竹内 圭介
	内科	8診	中久木 哲也【循】	新谷 卓也【循】	後藤 浩之【糖】	田口 由紀子【消】	中谷 仁【循】
		9診	後藤 浩之【糖】	田中 剛史【糖】	田中 剛史【糖】	田中 崇【糖】	田中 剛史【糖】
10診				内藤 雅大【呼】	奥田 昌也【糖】	岡野 智仁【呼】	
ペースメーカー チェック		ペースメーカーチェック (毎月第1月曜日午後)			ペースメーカーチェック (毎月第1木曜日午前)		
神経内科	1診	北川 長生	賀川 賢(再診予約のみ)	北川 長生	賀川 賢	北川 長生	
	2診	吉丸 公子	北川 長生(再診予約のみ)	賀川 賢	北川 長生	吉丸 公子	
小児科 (NICUフォロー発達 外来は予約のみ)	午前	1診	井戸 正流		井戸 正流	田中 滋己	
		2診	*NICUフォロー	*NICUフォロー	発達外来	*NICUフォロー	
		3診		田中 滋己	山本 初実(予約)	井戸 正流	
		4診	発達外来	発達外来		発達外来	
	午後	1診	田中 滋己(予約)	乳児健診			予防接種
		2診	NICUフォロー	2週間・1ヶ月健診	発達外来	NICUフォロー	
		3診	NICUフォロー	NICUフォロー	山本 初実(予約)	NICUフォロー	(NICUフォロー)
		4診	発達外来(学童)				発達外来(学童)
外科	1診	湯淺 浩行	谷川 寛自	横井 一	信岡 祐	谷川 寛自	
	2診	横井 一		武内 泰司郎		湯淺 浩行	
緩和ケア外来(予約・紹介のみ)							
整形外科 (予約・紹介のみ)	1診	田中 雅		田中 雅		浅沼 由美子	
	2診	長倉 剛		横山 弘和		長倉 剛	
	3診	新谷 健		新谷 健		横山 弘和	
脳神経外科	1診	霜坂 辰一	石田 藤麿	霜坂 辰一	種村 浩	石田 藤麿	
	2診		種村 浩(初診)		芝 真人	霜坂 辰一(再診予約のみ)	
脊椎・脊髄外科(予約・紹介のみ)			*水野 正喜 *診療時間は10:00~14:00までとなります。				
呼吸器外科			安達 勝利		樽川 智人		
心臓血管外科			森本 保		佐藤 友昭		
皮膚科(休診)			休診				
泌尿器科	1診		加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	
	2診		岩本 陽一(初診) (小児泌尿器)	岩本 陽一	岩本 陽一(初診) (小児泌尿器)	岩本 陽一	
産科・婦人科	午前	1診(初診)	前川 有香	日下 秀人	前田 眞	吉村 公一	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	前田 眞	武田 真由子	吉村 公一	武田 真由子	日下 秀人
		3診(産科再診)	中尾 真大	波多野 英美	前川 有香	中尾 真大	波多野 英美
		4診(助産師外来)	毎日、完全予約制(担当は交代制)				
	午後	1診(産科再診)	前川 有香	日下 秀人	前川 有香	吉村 公一	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	澤木 泰仁	武田 真由子	吉村 公一	武田 真由子	日下 秀人
3診	助産師外来	産後一ヶ月健診	助産師外来	助産師外来	助産師外来		
眼科*(当面の間、再診のみ)		久瀬 真奈美 三重大学医師	久瀬 真奈美	久瀬 真奈美 三重大学医師	久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	
耳鼻咽喉科	午前(初診)			伊藤 由紀子	伊藤 由紀子		
	午前(再診予約のみ)		伊藤 由紀子			伊藤 由紀子	
	午後(再診予約のみ)	伊藤 由紀子	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)		奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	
リハビリテーション科		浅沼 由美子	田中 雅	浅沼 由美子	長倉 剛	田中 雅	
歯科・歯科口腔外科		柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章	
看護外来(予約のみ)		看護外来 (第1月曜日 透析予防外来)	看護外来 (第3火曜日 透析予防外来)	糖尿病外来	ストーマ外来	フットケア外来	

*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30~11:00までです。 *医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。
 *当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月・火曜日 午前診療	月曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・水・木曜日 午前診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		小児科(益野)
未破裂脳動脈瘤 の相談	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・嚔胸	中耳外来 (予約)	ブレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来	緩和ケア外来
金曜日 午前診療 要予約(自費)	火曜日(10時~14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	月・木曜日午後 火曜日午前診療	月・木曜日 午前診療	月・水・木曜日 診療	金曜日 午後診療(要予約)
脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)	外科(谷川)